

事業報告（平成8年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000437

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



事業報告（平成8年度）

展 示 関 係

A. 収 蔵 品 展 一 覧

1. 芸術資料館陳列室

第1回 「春季展」

会 期 平成8年4月10日（水）～4月30日（火）

入場者 811人 21日間

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成8年6月4日（火）～6月23日（日）

入場者 684人 20日間

第3回 「版画展」

会 期 平成8年9月13日（金）～10月2日（水）

入場者 879人 20日間

第4回 「秋季展－模写作品」

会 期 平成8年10月29日（火）～11月17日（日）

入場者 1829人 20日間

第5回 「卒業作品」展

会 期 平成9年2月4日（火）～2月23日（日）

入場者 966人 20日間

◎総計 5169人 （101日開室）

2. 京都市四条ギャラリー

京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）において、本館及び本学芸術教育振興協会が主催する収蔵品展を開催した。

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

粉本－土佐派絵画資料展」

会 期 平成8年10月4日（金）～10月27日（日）

入場者 1060人 24日間

B. 収蔵品展展示概要

第1回 「春季展」

会 期 平成8年4月10日(火)～4月30日(火)

入場者 811人 21日間

本展示は、本館所蔵品の絵画と工芸資料の中から、近年公開の機会を得ていないものを中心に構成した。収蔵品は、学生の卒業作品と、参考品と呼んでいる制作や研究活動の参考に供する資料・作品に大別される。卒業作品は明治27年以後のものが選択的に収蔵され、参考品は美術工芸学校・絵画専門学校時代に収集されたものが中核をなしているが、この展示で鑑賞・研究に活用してもらうことを意図した。絵画・工芸に加えあまり展示される機会の少ない彫刻作品を選んだ。

展示作品

《絵 画》

樹 園	麻田 辨自	紙本著彩／額，昭和29年(1954)／第10回日展
山峡の里	上原 卓	紙本着彩／額，昭和60年(1985)／第12回創画展
北野天神縁起(承久本) 模本	巻 7	紙本著彩／卷子
北野天神縁起(弘安本) 模本	吉田友一、林司馬 等	紙本著彩／卷子，昭和7年頃(C.1932)
西芳寺林泉	国盛 義篤	麻布油彩／額，昭和23年(1948)
鏡の中の少女	津田 周平	麻布油彩／額，昭和51年(1976)／第30回二紀展
NOV. 1992	森本 岩雄	麻布油彩／額，平成4年(1992)／Ge展
「市」エスキース	今井 憲一	紙本油彩／額(2点)，昭和24年(1949)

《彫刻》

大獅子	大村 西崖	木彫，明治28年(1895)
第一步	石本 暁曠	木彫，昭和初期
母 性	北村 西望	ブロンズ，大正14年(1925)／第6回帝展
フランスの男	山本 格二	ブロンズ，昭和55年(1980)／(原型は第43回新制作展／1979)

《工 芸》

挿秧人物蒔絵盆		桃山時代
鶴蒔絵螺鈿硯箱	永田 友治	江戸時代
蟹蒔絵硯蓋	永田 友治	江戸時代
春馬蒔絵飾盆	平館 嘉邦	昭和34年頃(C.1959)
向日葵花瓶	清水 六兵衛(六代)	昭和14年(1939)／第3回新文展
蒔染付壺	近藤 悠三	昭和42年頃(C.1967)
風	浅見 隆三	昭和48年(1973)
塩釉花器	森野 嘉光	昭和35年(1960)／第3回新日展
遠い野	西嶋 武司	絹・型染パネル(全12面のうち)，平成3年(1991)

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成8年6月4日(火)～6月23日(日)

入場者 684人 20日間

本展示では、平成7年度に寄贈または購入により新たに収蔵された収蔵品52件93点のうち、卒業作品を除く参考品の一部を選び陳列した。当年度新収蔵品の特徴は、退職した本学教員から多くの寄贈作品があったこと、本学の前身京都府画学校の教員であった岸竹堂の作品を2点入手できた点である。これにより大学ゆかりの作家に関する資料をまた充実することができた。新収蔵品の点数が多く、会場が狭いためやむをえず一部作品を割愛し、特に版画作品については、次回展示でまとめて公開することとした。全体としては、絵画あり、彫刻あり、工芸あり、墨蹟ありとバラエティーに富む内容となった。

展示作品

《絵画》

岸 竹堂	橋立図巻	絹本淡彩, 卷子, 慶応2年(1886)	<購入>
岸 竹堂	近江八景図巻	絹本淡彩, 卷子	<購入>
川村曼舟旧蔵絵画資料(15点のうち)			<寄贈>川村恒明氏
柴山 元昭	蘭石図	紙本墨画, 軸	
狩野 栄信	団扇図	紙本淡彩, 軸	
森 寛斎	月夜山水図	紙本墨画, 軸	
森 寛斎	水月時鳥図	紙本墨画, 軸, 明治6(1873)	
森 寛斎	般若心経観音図	紙本墨書, 軸, 慶応元(1865)	
山元 春挙	祥瑞	絹本著彩, 軸	
川村 曼舟	山水	紙本淡彩, 軸	
三宅 呉暁	松溪白鹿図	絹本著彩, 軸, 明治時代	<移管>
山岸 純	涵	紙本著彩, 額, 昭和48年(1973), 第5回日展	<寄贈>作者
山岸 純	樹間	紙本著彩, 額, 平成4年(1992), 第24回日展	<寄贈>作者
徳岡 神泉	鳩(写生)	紙本著彩, 裏打, 明治44年(1911)	<寄贈>徳岡房子氏

《染織》

田畑 喜八	雪山草花模様友禅染刺繍留袖	絹, 昭和時代	<寄贈>望月重延氏
榊原紫峰(下絵)	寒汀芦鷺模様友禅染刺繍単衣着物	絹, 昭和時代	<寄贈>望月重延氏
寺石 正作	蓮	絹・蠟染, 屏風, 二曲一隻	昭和58年(1983)日展<寄贈>作者
寺石 正作	地平の譜	絹・蠟染, 屏風(四曲一双)	平成4年(1992)個展<寄贈>作者

《陶磁器》

小山 喜平	交合(立体造形)	平成5年(1993), 第48回新匠会展	<寄贈>作者
小山 喜平	ペルシャ青釉柘榴鉢	平成5年(1993)	<寄贈>作者
小山 喜平	青花露草文鉢	平成7年(1995)	<寄贈>作者
小山 喜平	呉須赤絵ボビー図高足皿(5客)	平成7年(1995)	<寄贈>作者
小山 喜平	茶碗(京都芸大大枝之土)	平成7年(1995)	<寄贈>作者
小山 喜平	御本手茶碗	平成7年(1995)	<寄贈>作者

《彫刻》

富樫 実	空にかける階段 '95-XXXV	櫨・漆, 平成7年(1995), 第50回記念行動展	<寄贈>作者
------	------------------	----------------------------	--------

《墨蹟》

川村曼舟旧蔵墨蹟資料(27点のうち)			<寄贈>川村恒明氏
大谷 句仏	俳句色紙	紙本墨書, 軸	
小澤 蘆庵	和歌懷紙	紙本墨書, 軸	
鳥丸 光広	和歌懷紙	紙本墨書, 軸, 明和8年(1771)	

第3回 「版画展」

会 期 平成8年9月13日(金)～10月2日(水)

入場者 879人 20日間

本展示では、本館が所蔵する版画作品の中から、吉原英雄・浅野竹二の新収作品を中心に紹介した。吉原・浅野両者の作品は昨年度寄贈されたものが大半で、今回初めて公開される。浅野作品には一部版木を附したものがあり、制作の様子をうかがうことができる。また、吉原作品には、氏が本学の教員在職中に指導した学生及び教員の作品を併せて展示し、本学版画研究室の歩みをうかがえるような配慮をした。

展示作品

浅野竹二	脱穀	昭和25年(1950)	紙, 多色木版
浅野竹二	東京名所 辨慶橋春雨	昭和31年(1956)	紙, 多色木版, 附版木
浅野竹二	東京名所 柳橋月明	昭和31年(1956)	紙, 多色木版, 附版木
浅野竹二	東京名所 増上寺暮色	昭和31年(1956)	紙, 多色木版, 附版木
浅野竹二	東京名所 泉岳寺	昭和31年(1956)	紙, 多色木版, 附版木
浅野竹二	東京名所 桜田門春色	昭和31年(1956)	紙, 多色木版, 附版木
浅野竹二	エフェシスの雨	昭和42年(1967)	紙, 多色木版
浅野竹二	力士	昭和44年(1969)	紙, 多色木版
浅野竹二	水鳥	昭和45年(1970)	紙, 多色木版
浅野竹二	アコーディオンを弾く人	昭和46年(1971)	紙, 多色木版
浅野竹二	岬の道	昭和46年(1971)	紙, 単色木版
浅野竹二	おんどりとめんどり	昭和51年(1976)	紙, 多色木版
浅野竹二	秋の鳥	昭和58年(1983)	紙, 単色木版
浅野竹二	虫を見る少女	昭和59年(1984)	紙, 単色木版
浅野竹二	求愛	昭和62年(1987)	紙, 単色木版
浅野竹二	和合	昭和62年(1987)	紙, 多色木版
浅野竹二	VE	平成3年(1991)	紙, 単色木版
吉原英雄	樹の聲人の聲 A	平成3年(1991)	紙, リトグラフ
吉原英雄	樹の聲人の聲 '92-B	平成4年(1992)	紙, リトグラフ
吉原英雄	樹の聲人の聲 '92-D	平成4年(1992)	紙, リトグラフ
吉原英雄	海へ	平成7年(1995)	紙, リトグラフ
吉原英雄	よみがえる始祖鳥	平成8年(1996)	紙, リトグラフ
吉原英雄	はばたく始祖鳥	平成8年(1996)	紙, リトグラフ
吉原英雄	MIRROR OF THE MIRROR	昭和47年(1972)	紙, リトグラフ
井田照一	SPRAYED HELICOPTER	昭和48年(1973)	紙, リトグラフ
木村秀樹	Pencil 2-1	昭和49年(1974)	紙, シルクスクリーン
井田照一	Girls Interior II	昭和48年(1973)	紙, リトグラフ
舞原克典	委員会 (12枚組)	J. HIRATA, T. ISIDA, G. KITANO, S. KIMURA, I. MORIMOTO, E. SATO, M. SATO, R. TATSUBO, A. UEMURA, T. UMEHARA, S. YAMAZAKI, T. YODEN	昭和49年(1974) 紙, 銅版(写真製版)・シルクスクリーン
鳥井雅子	glass	昭和55年(1980)	紙, リトグラフ
佐久間嘉明	浮遊	昭和47年(1972)	紙, 石版 芸大美術専攻科西洋画専攻修了作品
橋本文良	Tee Shirt	昭和48年(1973)	紙, シルクスクリーン 芸大美術専攻科西洋画専攻修了作品
安東菜々	Work. I	昭和49年(1974)	紙, シルクスクリーン 芸大美術専攻科染織専攻修了作品
田中孝	ひも	昭和50年(1975)	紙, シルクスクリーン 芸大美術専攻科西洋画専攻修了作品
山本容子	Cock Jonathan	昭和51年(1976)	紙, 銅版 芸大造形コース西洋画科卒業作品

第4回 「秋季展」

会 期 平成7年10月29日（火）～11月17日（日）

入場者 1829人 20日間

本展示では、本館の所蔵する絵画資料の中から近現代の日本画と洋画作品を展示した。これらは大半が本学ゆかりの画家達によるもので、本画作品ばかりでなく、写生も併せて展示した。徳岡神泉の自画像は、昨年寄贈されたもので、学内で展示されたのはこれが最初である。また、あまり知られていないことだが、東京洋画壇で活躍した足立源一郎は、かつて本学の前身である京都市立美術工芸学校で学んだことがある。本館には彼の若い時代の写生資料が寄贈されており、久しぶりにこれを公開した。

展示作品

足立 源一郎	白川にて	紙・鉛筆	明治39年(1906)	
	下加茂	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	下加茂の森	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	下加茂村	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	加茂	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	銀閣寺北八神社	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	黒谷寺山門	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	寺院	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	浄土寺町	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	疏水	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	白川村	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	武者小路新町西	紙・鉛筆	明治40年(1907)	
	manganji	紙・鉛筆	明治41年(1908)	
	裸婦	紙・鉛筆	大正3年(1914)	
	裸婦	紙・鉛筆	大正3年(1914)	
	裸婦	紙・鉛筆	大正3年(1914)	
	裸婦	紙・鉛筆	大正3年(1914)	
今井 憲一	祇園会	麻布油彩	昭和33年(1958)	第26回独立展
	断面	麻布油彩	昭和47年(1972)	第40回独立展
	スケッチブック(社寺)－裸婦	紙・鉛筆	昭和6年(1931)	
	スケッチブック(裸婦)－裸婦	紙・鉛筆	昭和14年(1939)	
	スケッチブック(裸婦)－裸婦	紙・鉛筆	昭和30年(1955)	
上原 卓	スケッチブック(エスキス)－祇園会	紙・鉛筆	昭和44年(1969)	
	草	紙本著彩	昭和37年(1962)	第26回新制作展
	横たわる裸婦	紙・チョーク	昭和46年(1971)	
	よりかかる裸婦	紙・チョーク	昭和47年(1972)	
岡村 宇太郎	漁夫の娘	綿布著彩		
奥村 厚一	尾瀬・平滑滝	紙・鉛筆・色鉛筆	昭和18年(1943)	
	尾瀬沼・沼山峠ニテ	紙・鉛筆・色鉛筆	昭和18年(1943)	
	ぶなの林	紙・鉛筆・色鉛筆	昭和22年(1947)	
	築山ニテ武奈岳	紙・鉛筆	昭和27年(1952)	
梶 喜一	行く	紙本著彩	昭和49年(1974)	
鹿子木 孟郎	裸婦素描	紙・鉛筆	昭和初期頃	
	裸婦素描	紙・鉛筆	昭和初期頃	
木下 章	万葉の花 秋	紙本著彩	昭和56年(1981)	
津田 周平	<夢のように>森の中の裸婦	麻布油彩	昭和52年(1977)	第31回二紀展
徳岡 神泉	自画像	絹本著彩	大正10年頃(C. 1921)	
中村 善種	公告のある街での対話	麻布油彩	昭和52年(1977)	第45回独立展
森本 岩雄	G. 1993	麻布油彩	平成5年(1993)	
山岸 純	晨	紙本著彩	昭和54年(1979)	昭和世代日本画展

第5回 「卒業作品」展

会 期 平成9年2月4日(火)～2月23日(日)

入場者 966人 20日間

本展示では、本館収蔵品の中から本学の前身である美術大学以後の卒業作品の一部を展示した。選んだのは近年公開することの少なかった日本画科と西洋画科の卒業作品で、大部分の作品が、収蔵後始めて公開される資料だった。

展示作品

阿部 佳男	静物	昭和29年(1954)	麻布油彩	美大西洋画科第2回卒業制作
上村 淳之	鳴 A	昭和32年(1957)	紙本着彩	美大日本画科第5回卒業制作
”	鳴 B	昭和32年(1957)	紙本着彩	美大日本画科第5回卒業制作
岩倉 寿	山	昭和34年(1959)	紙本着彩	美大日本画科第7回卒業制作
鶴原 一仁	池	昭和35年(1960)	紙本着彩	美大日本画科第8回卒業制作
林 剛	ある試作	昭和35年(1960)	麻布油彩	美大西洋画科第8回卒業制作
安土 優	鞍馬	昭和37年(1962)	紙本着彩	美大西洋画科第10回卒業制作
渡辺 信喜	軍鶏	昭和39年(1964)	紙本着彩	美大日本画科第12回卒業制作
林 潤一	南天	昭和42年(1966)	紙本着彩	美大日本画科第14回卒業制作
川端 健生	木立	昭和42年(1967)	紙本着彩	美大日本画科第15回卒業制作
宮村 長	風景	昭和43年(1968)	麻布油彩	美大西洋画科第16回卒業制作
鶴田 憲次	時空	昭和46年(1971)	麻布油彩	美大美術学部西洋画科第2回卒業制作
安永 元典	十様の表情	昭和49年(1974)	麻布油彩	芸大美術学部専攻科西洋画専攻 第6回修了制作
重岡 良子	とまと図	昭和52年(1977)	紙本着彩	芸大美術学部造形コース日本画専攻 第8回卒業制作
松山 和夫	ARK II Orbit in Green	昭和52年(1977)	麻布油彩	芸大美術学部美術専攻科西洋画専攻 第8回修了制作
川村 悦子	迷路	昭和53年(1978)	麻布油彩	芸大美術学部造形コース洋画科 第9回卒業制作
小西 通博	北行	昭和54年(1979)	紙本着彩	芸大美術学部造形コース日本画専攻 第10回卒業制作

C. 京都市四条ギャラリー展示

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展」

粉本－土佐派絵画資料展

会 期 平成8年10月4日（金）～10月27日（日）

会 場 京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）

入場者 1060人 24日間

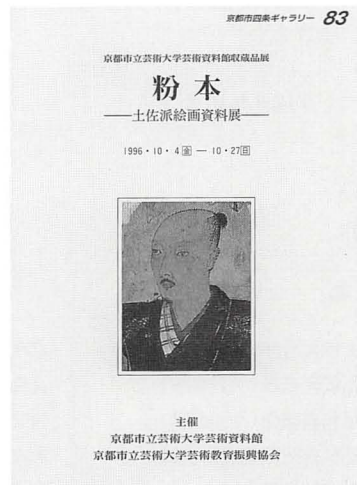
京都市四条ギャラリーにおいて本館収蔵品展を行った。主催は本館及び本学芸術教育振興協会である。また展示にちなみ、本館編・同振興協会発行の図録「土佐派絵画資料目録（七）画帖（一）」が発行された。目録の編集は本学教授でもある榊原吉郎館長と本館学芸員で行い本展示で始めて公開された2点の資料を掲載している。

展示内容は本館の所蔵する土佐派絵画資料のうち、これまでに整理された肖像・道釈画・障壁画・絵巻などの粉本の中から、公開・未公開に関わらず興味深い資料48点を選び展示した。質的には優れたものが多く、初公開の画帖2点も含んで、会期中は美術愛好家ばかりでなく、美術研究者の来場も少なかった。

展覧会用に、ポスター（B3，2色刷）・はがき（2色刷）・パンフレット（B5判，4ページ）が印刷された。



ポスター



パンフレット



はがき

ごあいさつ

京都市立芸術大学は、内外に広く開かれた大学をめざして、美術・音楽にわたり幅広く持続的な活動を続けておりますが、芸術資料館が所蔵する土佐派絵画資料の一般公開もその重要な事業のひとつです。土佐派絵画資料というのは、室町時代から明治期に至るまで活動が続けた大和絵の画系、土佐家累代に伝えられた下絵や模本などの粉本類をいいます。芸術資料館が、それまで少しずつ進めていた研究調査を本格的に始め、本学の芸術教育振興協会との共催により一般公開に踏み切ったのは、平成2年の「土佐派肖像粉本―將軍・茶匠・町衆」からでした。以来、柿本人麿を中心にした「歌神・歌聖」、「御所の障壁画」、「鳳凰堂板絵・道釈画」、「四季と歌の絵巻」「絵巻」と続き、これら新資料の公開は、その都度好評を重ねてまいりました。

今回は、これまで開催した6回の展示を回顧し、既に公開した資料の中から選んだ優品に、初めて公開する資料を加えて展示するものです。これらの資料を通じて東洋絵画の世界で極めて重要な意味を持っていた粉本の魅力を再発見していただければ幸いです。

また芸術資料館では、これらを分類してまとめた土佐派絵画資料目録を、同じく芸術教育振興協会の協力を得て順次刊行しており、現在は第7巻を数えるまでになりました。こうした研究調査目録の刊行によって、関係する各分野の研究にささやかにも貢献できていますことは、望外の慶びとするものです。

本展の開催にあたり、関係各位の多大なるご協力に深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

平成8年10月

京都市立芸術大学芸術資料館
京都市立芸術大学芸術教育振興協会

出品目録

品 名 (作者)	年 紀	材 質	法 量 (mm)	目 録
土佐光芳像	安永元年(1772)卒年	紙本墨画	550×352	肖像1-10
土佐光貞像	文化3年(1806)卒年	紙本墨画一部朱描	486×362	肖像1-12
足利義晴像(土佐光茂)	天文19年(1550)	紙本着彩	243×413	肖像1-19
足利義晴像(土佐光茂)	天文19年(1550)	紙本着彩	339×380	肖像1-20
三好義継像(玄二)	天正元年(1573)卒年	紙本墨画	573×366	肖像1-24
足利義輝像(源二)	永禄10年(1567)卒年	紙本墨画	202×160	肖像1-27
足利義輝像(源二)	永禄10年(1567)卒年	紙本墨画	153×137	肖像1-28
千利休像		紙本墨画	410×378	肖像1-39
今井宗久像		紙本墨画	535×404	肖像1-49
木津屋道久妻像	元亀3年(1572)	紙本墨画	520×484	肖像1-62
戸嶋永秀像	天正2年(1574)卒年	紙本墨画	463×402	肖像1-63
天王寺屋宗閑像	元和3年(1617)	紙本墨画	402×420	肖像1-66
長谷川藤広像		紙本墨画	429×443	肖像1-74
柿本人麿像	寛文8年(1668)	紙本墨画	467×521	肖像2-2
柿本人麿像	元禄9年(1696)	紙本墨画	670×363	肖像2-6
柿本人麿像(土佐光成)	延宝4年(1676)	紙本墨画	864×363	肖像2-21
柿本人麿像	延宝2年(1674)	紙本墨画	468×414	肖像2-35

品 名 (作者)	年 紀	材 質	法 量 (mm)	目 録
住吉明神像	享保 2 年(1717)	紙本墨画	828×280	肖像2-44
衣通姫像	寛文 5 年(1665)	紙本墨画	443×778	肖像2-46
衣通姫像(土佐光芳)	宝暦 2 年(1752)	紙本墨画	434×290	肖像2-49
玉津島明神像	寛文 8 年(1668)	紙本墨画	458×675	肖像2-56
玉津島明神像(土佐光成)	延宝 6 年(1678)	紙本墨画	541×430	肖像2-57
皇后御常御殿御上段間 列女傳有虞二妃図(土佐光清)	安政 2 年(1855)	紙本墨画一部朱描	1586×1828	内裏-117
陣座馬形障子下絵(土佐光時)	寛政 2 年(1790)	紙本墨画	940×1181	内裏-22
清凉殿昆明池障子 嵯峨野小鷹狩図(土佐光貞)	寛政 2 年(1790)	紙本墨画一部淡彩	1628×762 1623×924 1626×842	内裏-19・20・21
清凉殿御手水間小障子 猫図(土佐光文)	安政 2 年(1855)	紙本墨画	920×685	内裏-50
清凉殿御手水間小障子 竹雀図(土佐光文)	安政 2 年(1855)	紙本墨画	990×685	内裏-51
御常御殿御寝間 竹虎図小下絵(土佐光文)	慶応 3 年(1867)	卷子・紙本淡彩	425×5238	内裏-96
飛香舎代鳥居障子小下絵 (土佐光貞・光時)	寛政 6 年(1792)	卷子・紙本淡彩	444×5850	内裏-114
清凉殿名所絵下絵 (土佐光貞・光時・光孚)	寛政 2 年(1790)	卷子・紙本淡彩	303×13025	内裏-1
平等院鳳凰堂東面北側扉 上品中生図		紙本淡彩	2200×910 2565×1010	鳳凰-4・3
平等院鳳凰堂北面側壁 中品中生図		紙本淡彩	1365×3270	鳳凰-13
弁財天十五童子図(土佐光祐)	貞享 5 年(1688)	紙本墨画	836×427	鳳凰-26
弁財天像(土佐光成)	元禄12年(1699)	紙本墨画	1106×418	鳳凰-21
弁財天像	元禄 7 年(1694)	紙本淡彩	693×418	鳳凰-16
寒山拾得図	元禄11年(1698)	紙本墨画	573×416	鳳凰-92
寒山像	元禄 6 年(1693)	紙本墨画	518×339	鳳凰-57
伏犠像	寛文 7 年(1667)	紙本墨画	540×397	鳳凰-102
七十一番職人歌合(土佐光吉)	慶長14年(1609)	卷子・紙本墨画	262×7417	絵巻1-9
名所歌絵巻	寛文 2 年(1662)	卷子・紙本墨画	252×6330	絵巻1-15
狭衣物語画巻		卷子・紙本墨画	320×10350	絵巻2-4
平家物語絵巻		卷子・紙本墨画	261×12209	絵巻2-9
文正草子絵巻	寛永14年(1637)	卷子・紙本墨画	263×10917	絵巻2-13
鳥虫写生帖	天文21年(1599)等	冊子・紙本淡彩	380×385	写生1-1
写生帖	寛政 6 年(1795)等	冊子・紙本淡彩	284×202	写生1-2

*「目録」は資料の収録される目録名と資料番号を示す。それぞれ、肖像1＝『土佐派絵画資料目録(一)肖像粉本(一)』、肖像2＝『土佐派絵画資料目録(二)肖像粉本(二)』、内裏＝『土佐派絵画資料目録(三)内裏造営粉本』、鳳凰＝『土佐派絵画資料目録(四)鳳凰堂板絵・道釈画粉本』、絵巻1＝『土佐派絵画資料目録(五)絵巻粉本(一)』、絵巻2＝『土佐派絵画資料目録(六)絵巻粉本(二)』、写生＝『土佐派絵画資料目録(七)写生(一)』(来春刊行)を示す。

*表紙図版は「足利義晴像(土佐光茂)」部分。

今日、美学あるいは美術史学において考えられている「粉本主義」に対する評価について、再考しても良い時期に来ているのではないか、という疑問は否定できないだろう。現在「粉本主義」について否定的な傾向があまりにも顕著であり、「粉本主義」は否定されねばならない存在物であるかのごとき行き過ぎた評価が定着しているからである。はたして「粉本主義」は絵画制作を含め、絵画教育の観点から、また、その観賞の場においても、あるいは絵画芸術の理解にとっても役立たずなイデオロギーであるのであろうか。

それについても、ここでまず「粉本」とは何かを規定しておかねばなるまい。「粉本」とは何か？、この問い掛けに対して明確な解答を提出することは実は大変難しい。

まずは、岩波の『広辞苑』を参考してみよう。「絵画の下がき。昔は胡粉で下絵を描き、後に墨でかいたからいう。或は、後日の研究や制作の参考とするために模写された絵画。墨線のみで写した白描本が主であるが、彩色されたもの、色名だけを注記したもの、縮写したものなどもある。」と記載し、更に、「特に密教の僧侶が図像研究のため写した粉本は重要。」なものとして特に白描図像粉本の意義を認める。

これは極めて一般的な辞書による「粉本」の解釈であるが、もちろんこれで粉本の意味が全て理解されるものではない。むしろ粉本を考察する場合、東洋画論において常に問題とされる「画之六法」の解釈に目を向けざるえない。「画之六法」の最後に《伝模移写》として模写が取り上げられている。

「画之六法」の解釈を巡って、我が国では狩野派をはじめ様々な論議が展開しており、その議論のなかで展開する粉本や模写は様々な意味をもち、取り上げ方も多種多様である。しかし、その中でも土佐

派の棟梁である光起は《伝模移写》について『本朝画法大伝』の中に最も明快な言及をしてみせる。

光起が「画之六法」を取り上げる際、粉本に関連する《伝模移写》を変更し《伝膳模写》として記す。

「六曰伝膳模写〔師匠たる人より画本を借りて膠地紙に伝写し、是を貯置第一の宝とす、是を粉本といふ。臨にするはあしく、臨すれば筆勢不調、唯其形を似せたるばかりにて用にたたず、写に心付有べし。画本に不似して宜あり、不似して悪あり、似て宜あり、似て不宜あり、其画を学ぶには粉本を写を第一とす。粉本を持ざれば、習事あたはず、目利もならず、粉本を写間にしぜんとそれぞれの筆路彩色も覚るなり。〕

この文は短いながら光起の創意が光る。「粉本」の概念も明確に表現されており、光起の思考は六法の第六番目に置かれている《伝模移写》をもって、《気韻生動》というイデーに近付く第一歩と考えていた形跡が伺える、と云ってよい。つまり、絵画教育の階程として、粉本を学び取るところから先ず始め、粉本を写し取る間に、自然と絵画の本質を会得してゆくことになる。

我が国に於いて、粉本の性格を的確に規定したのは、この『本朝画法大伝』の土佐光起が最初であり、この粉本規定は粉本考察の起点となるものと言える。

一七世紀末から一八世紀初頭にかけて、粉本の取扱について、重要視する傾向が現れてきたことは注目して置きたい。（京都市立芸術大学教授）

●ギャラリー講座

□10月11日(金)

「粉本—土佐派絵画資料をめぐる」

榊原吉郎（京都市立芸術大学教授）

●午後5時30分会場でおこないます。

次回予告

京都市四条ギャラリー 84

(財)京都市芸術文化協会創立15周年記念

京の大家 三人展

秋野不矩・北村武資・芝田米三

1996年11月2日(土)～11月26日(火)

京都市四条ギャラリー

京都市下京区四条高倉東入（四条東洋ビル地階）

TEL(075)223-1851 〒600

●開所時間：午前10時～午後7時 ●休所日：水曜日、年末・年始



II. 教育普及関係

A. 収蔵品貸出状況

本学外に貸し出された収蔵品は下記のとおりである。

平成7年度総計 22件 50点

作品名	貸出先／展覧会名	会 期
徳岡神泉「水汀」「晩秋」「牡丹（落花）写生」「自画像」 京都国立近代美術館／読売新聞社大阪本社／徳岡神泉展		1996. 04. 16～06. 30
鶴沢探鯨「黄初平図」 京都大学文学部博物館／江戸期の京画壇－鶴沢派を中心として－		1996. 04. 23～06. 01
関根勢之助「植物図鑑」「砂漠記」「地下水系 B」 京都市美術館／京都の美術 昨日・今日・明日 19「記憶の森 関根勢之助展」		1996. 05. 25～06. 23
村上華岳「裸婦画稿」・奥村厚一「浄晨画稿」 松伯美術館／近代日本画の本画と下絵－京都府画学校から京都市立芸術大学へのあゆみ－		1996. 10. 29～11. 24
上村松篁「花鳥」・土佐光清「四季花鳥図」・徳田隣斎「達磨」・黒田重太郎「平安春色」・ 北村西望「母性」・近藤悠三「石榴染付面取壺」・六代清水六兵衛「古稀彩水仙花瓶」 金沢美術工芸大学／開学50周年記念展覧会「五芸大所蔵美術作品展」		1996. 11. 02～11. 15
小塩 薫「痕跡からの結晶」3点 東京国立近代美術館 磁器の表現－1990年代の展開		1996. 09. 20～11. 04
「九相図巻」(模本)・「福富草紙」(模本)・「後鳥羽天皇画像」(模本)・「一遍上人絵伝巻七」(模本) 京都府京都文化博物館／京都・激動の中世－帝と将軍具運と町衆と－		1996. 11. 13～12. 15
星野空外「淀川」・松宮芳年「堺の相生橋」・海老名長虹「枯林蕭籜」・花井抱甕「秋晩」 山口県立美術館／明治日本画の新情景－ひと・まち・しぜん－		1996. 12. 20～1997. 01. 26
上村松篁「立葵」 毎日新聞社／画業三代の精華－上村松園・松篁・淳之－		1996. 12. 31～1997. 06. 24
清水古閑「厩戸皇子」 タリピピアセンター／郷土が生んだ日本画家 清水古閑		1996. 10. 19 ～12. 08
新見虚舟「市の日」 名古屋市美術館／郷土の美人画考－江戸から現代まで－		1997. 04. 12 ～05. 18
永楽保全「金呉州赤絵小鉢」 愛知県陶磁資料館／呉州赤絵・呉州染付・餅花手－スワトウ・ウェアの世界－		1996. 11. 30～1997. 02. 02
村山槐多「信州風景」 福島県立美術館・三重県立美術館／生誕100年 村山槐多展		1997. 02. 22 ～07. 13

土田麦僊「髪」 読売新聞社／日展 90 年記念展	1997. 01. 03 ～03. 18
奥村厚一「溯」 社団法人創画会・毎日新聞社／創画会五十年記念展	1997. 01. 03 ～11. 09
入江波光「虹画稿」・井上永悠「綿羊」・要樹平「兵営附近」 ・沢田石民「風景」・高山三郎「風景」・林司馬「山茶花」 京都新聞社／近代日本画の革新と創造－国画創作協会の画家たち展－	1997. 03. 13～03. 25
森谷南人子「麗艶」 尾道市立美術館／四季を歩く－森谷南人子－	1997. 03. 15～04. 13
小野竹喬「南国」 北海道立近代美術館／小野竹喬展	1997. 02. 01～02. 23
「年中行事絵巻 巻九・巻十二」（模本）2 巻 町田市立博物館／獅子頭－西日本を中心に	1997. 04. 26～06. 01
宇田荻邨「野々宮」 産経新聞大阪本社／宇田荻邨展	1997. 04. 05～05. 18
山本知克「家」 石川県立美術館／日本画家－山本知克展	1997. 05. 29～07. 07
谷文晁「荏柄天神縁起」（模本）3 巻 MOA美術館／熱海再発見	1997. 10. 10～11. 12

*員数なきものは全て 1 点

B. 収蔵品学内使用状況

I. 本学内に於いて館外使用した収蔵品は下記のとおりである。

総計 12 件 12 点

資 料 名		目的	貸出先	使用場所
桓埜王図模本	1 枚	模写	日本画研究室	模写室
花園天皇像模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
栄山寺八角堂柱絵模本	1 面	模写	日本画研究室	模写室
西行物語絵巻模本	1 巻	模写	日本画研究室	模写室
一休禅師像模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
銭選筆牡丹図模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
金沢貞顕像模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
金沢貞将像模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
北条実時像模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
北条顕時像模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室
応挙写生画卷模本	1 巻	模写	日本画研究室	模写室
李迪筆牡丹図模本	1 幅	模写	日本画研究室	模写室

C. 収藏品補修状況

今年度補修修理を行った収藏品は下記のとおりである。

総計 5件 21点

名 称	点数	類別	補修内容
『土佐派絵画資料』絵巻粉本	17巻	参考品	卷子装
川村曼舟「社頭の杉図」	1幅	参考品	軸装
川村曼舟「月下水辺図」	1幅	参考品	軸装
川村曼舟「弁慶と牛若図」	1幅	参考品	軸装
下村良之助「闘鶏図画稿」	1隻	参考品	屏風装

D. 収藏品撮影掲載状況

本館収藏品の撮影掲載許可は下記のとおりである。

総計 20件 26点

作品名	掲載者	掲載書誌名	発行月
模本資料・年中行事絵巻のうち「祇園御霊会・祇園祭馬長」部分	保育社	『祇園祭』	1996.6月
千種掃雲絵画資料のうち「人物描写図」	廣田 孝	『磯野先生定年退職論文集』	1996.5月
模本資料・平治物語絵巻のうち「三条殿夜討」部分	浜島書店	『資料カラー歴史』	1996.12月
秋野不矩 「雨 期」	読売新聞編集局	読売新聞日曜版	1996.6月
土佐派絵画資料のうち「今井宗久画像」	淡交社	淡交別冊第19号	1996.9月
模本資料・年中行事絵巻のうち「祇園御霊会」	京都放送	『祇園祭山鉾巡行生中継～信仰と美の結晶～』	1996.7月
模本資料のうち「一遍上人絵伝」	フォーラムA	『歴史の道・再発見』（全8巻）のうち第6巻	1996.10月
模本資料のうち「末吉船」	横浜マリタイムミュージアム	特別展『海から見る日本』展示用写真パネル及図録等	1996.10月
藤原貞幹「集古図稿本」のうち<天文><古扇><金幣>三図	京都古書研究会	季刊誌『京古本や往来』74号	1996.10月

川端健生 「木立」	奥田プリンティングアート	『川端健生作品集』	1997. 5月
模本資料・年中行事絵巻のうち「祇園御霊会」・巻9・巻12・巻13	宇治市歴史資料館	『宇治の芸能史』	1997. 7月
六代清水六兵衛「向日葵花瓶」	河原書店	『近代日本の陶芸家』	1997. 4月
清水古閑 「厩戸皇子」	タリイピアセンター	常設展示用複製	1997. 4月
田村宗立旧蔵粉本のうち「天照大神図」	皇學館大学神道研究所	紀要第13輯	1997. 3月
模本資料・年中行事絵巻のうち「祇園御霊会」	京都新聞社	CD-ROM『京都・山鉾・祇園祭』	1997. 4月
模本資料・年中行事絵巻のうち「祇園御霊会」	京都市文化観光資源保護財団	第7回京の歳時記展『京との剣鉾』展示パネル	1997. 2月
岡本神草「口 紅」・田中九衛「紡績工場之図」	小学館	日本美術館（全1巻）	1997. 11月
模本資料のうち「後鳥羽天皇画像」	大通寺	時報『ふかみくさ』7号	1997. 3月
土佐派絵画資料のうち「三好義継像」	三の丸尚蔵館	年報・紀要 第2号	1997. 3月
土佐派絵画資料のうち「大阪冬の陣図」	和歌山県立博物館	特別展『戦国合戦図屏風の世界』展示解説	1997. 10月

注・掲載を要しない研究のための撮影や手続きをしても使用しなかった掲載許可などについては、割愛している。

E. 博物館学実習受入状況

本学博物館学課程の博物館学実習について本施設では下記の者を受入れた。

葦田 幸代	江口 貴子	桑嶋 華	佐甲 智子	藤本 尚子
堀部恵美子	本位田美穂	三谷 陽子	森竹 晴美	山岸 あい
渡辺 桃子	太田由香里	曾根 亮子	田部 恭子	根来 紀子
二瓶 晃	脇村 有美	北地 直子	黒田みのり	洪 恵淑
東端 哉子	馬 超	山本 緑	飽浦 葉子	北川 満哉
辻 誠				

以上 26 名

F. 特別閲覧許可状況

本館収蔵品の特別閲覧状況は下記の通り。

学内関係者	2 件
学外特志者	2 件
総計	4 件